

農へのこだわり

〜知っててよかった〜

広兼和明 指導員



安芸太田町の特産品「祇園坊柿」の加工品もたくさん販売されています!

『カキノヘタムシガ』



被害をもたらす害虫です。今回は、カキノヘタムシガの発生生体と防除について説明します。

発生生体



くやへタなどに産みつけられ、ふ化直後の幼虫は主に芽を食害し、後に

本州、四国地方および九州地方に広く分布し、柿の栽培で大きな

成虫は年2回発生し、第1世代は、5月下旬頃から6月中旬頃に発生します。卵は夜間、芽の近く

カキノヘタムシガ防除暦

月	時期	防除薬剤	注意事項
6月	上旬	オリオン水和剤40(1000倍) または、トクチオン水和剤(800倍) ジェイエース水溶剤(1500倍)	◎重点防除時期 ◎西条柿では果実の表皮障害防止のため、開花後から梅雨明けまでは「クレフノン」50倍を加用し防除する。
	中旬		
	下旬		
7月	上旬	スミチオン水和剤40(800倍)	
	中旬		
	下旬		
8月	上旬	スタークル顆粒水溶剤(2000倍) サイアノックス水和剤(1000倍) ※収穫45日前まで	◎重点防除時期
	中旬		
	下旬		

※防除暦は平成27年3月末現在の登録に基づいて作成

病害虫防除

カキの果の落果被害は2回あり、果

果実や、まれに枝の中にも食い込みます。第2世代の幼虫は、7月中下旬頃から8月上中旬頃に発生し、第1世代の幼虫と同じ経過をたどります。

実が少しふくらんだころに第1世代の幼虫の被害を受けると果実が3cm前後で落果します。2回目の被害は第2世代による被害で、被害果が大きくなつたときに熟する前に色つきへタから離れて落果します。

営農のことにするアドバイス

営農110番

水稻・野菜・花き・果樹など、農業に関するアドバイスをいたします。

受付：平日 9:00～17:30

- 広島南営農事務所 ☎(082)849-6355
- 広島北営農事務所 ☎(082)841-4919
- 山県営農事務所 ☎(0826)85-0020
- 本店指導販売課 ☎(082)870-5893

※本店指導販売課では土曜日9:00～12:00まで対応

今月の農作業

〈水稻〉…5月連休植えの水稻は、残草対策の時期になります。草の種類と対応する除草剤を選んで散布しましょう。

〈ジャガイモの収穫〉…葉が黄色く枯れてきた頃を目安に行ってください。天気の良い日にイモを傷をつけないように収穫し、日陰の風通しのよい場所で乾かした後、冷暗所で貯蔵してください。

〈タマネギの収穫〉…葉が7割程度倒れた頃を目安に行ってください。天気の良い日に収穫し、そのまま畑で2、3日乾かした後、数球ずつ縛って日陰の風通しのよい場所ですって貯蔵してください。

〈果菜類の管理〉…収穫が始まる時期です。草勢を見ながら7から10日おきに追肥を行きましょう。病害虫も発生しやすい時期となりますので注意し、早めの防除を心がけてください。